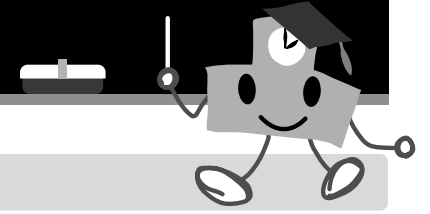


小学校の事例 北区 光陽小学校

# 資源化を体験・見学することで、紙を大切にすることがアップ。

牛乳パックを利用した、はがきづくりやリサイクル工場を見学。自分たちの回収している牛乳パックのリサイクル課程を学び、活動がより積極的に!!



## 内容 紙すき体験とリサイクル工場見学

本校では牛乳パックの回収を行うとともに、その意義を確認できる体験・見学を導入している。

昨年は、4年生が牛乳パックを利用した紙すき体験を行った。これは札幌市環境事業公社の講座に応募して実現したもので、3名の方がゲストティーチャーとして学校に道具を持参し、牛乳パックを利用したはがきづくりを指導した。子供たちはそれぞれはがき2枚ずつ完成させた。この活動をとおして、毎日のように飲んでいる牛乳のパックから紙が再生できることを知り、子供たちはさらに熱心に牛乳パック回収にあたるようになった。

また、6年生は修学旅行で、倶知安の紙をリサイクルして製品化する工場を見学した。子供たちは、工場内で古紙等の原料やそれを溶かす作業、再生したあと

紙のもとになる大きなロールなどを見学。実際に学校で回収した牛乳パック約600枚を、再生したトイレトペーパーに交換してもらった。これにより、ふだんの牛乳パックリサイクルの活動が「回収した後の過程」や「再生した製品」とつながり、牛乳パックのリサイクルについて深くとらえることができた。



4年 古紙再生授業 紙すき体験①

## 効果 体験と観察をとおして積極的な活動に

4年生は牛乳パックを利用した紙すき体験で、6年生は、回収された牛乳パックが再生される場所を見学したことで、毎日の回収作業の「結果」を学ぶことができた。実際にリサイクルを体験・観察したことで、リサイクル活動の意義を理解し、日頃の牛乳パック回収活動にも積極的に取り組むようになっている。



4年 古紙再生授業 紙すき体験②

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪



実施校から  
メッセージ

修学旅行の施設見学で、子供たちが一番驚いていたのは、精選された紙料からできたジャンボロールが巻き上げられ大きくなっていくようすを見学したときです。巻かれている時の大きさは直径約1m、幅は約3mの巨大トイレトペーパーロールが鉄柱を芯として巻かれるのですが、重さは約1t、長さは約25kmにもなります。これ1つで約4,000個のトイレトペーパーになり、子供たちは学校や家庭で使用されているロールの大きさと比べながら、圧倒されていました。